

# 幼 年 期 福 祉 演 習

檜 田 美 雄 教 授

期 末 レ ポ ー ト

選 択 : 課 題 C

幼年発達支援コース M1

吉 田 美 奈

平成 23 年 1 月 21 日提出

## 前提的作業

### 先終了句

会話を終了させるために用いる句。発せられた隣接対としての終了交換の第2パートが終わるときが会話の終わる時であるという相互理解をつくりだすことができる。

### 終了交換

先終了句の後、一方の「さよなら」に対し、もう一方が「さよなら」と返すというような形で、対称的に相互的に取り交わされる最後の挨拶の交換。

### カテゴリー集合

{性別 | 男, 女} など、一緒に用いられるのが自然なカテゴリーの集まり。どんなカテゴリーがカテゴリー集合を構成するかは、経験的に見出されるべき問題であり、時代や社会が異なれば異なっている可能性がある。

### 相互行為空間

環境内で志向的に接続しあう複数の身体の空間的な配列を指す。ゴッフマンが、複数の人間がその場に居合わせているという事実を捉えて「状況」と呼んだものに限りなく近い。

### 参与者

会話への参加が他の成員によって知られている者を指す。Goffman(1976) や Clark and Carlson (1982) は、会話の参与者を、会話に参加していることが他の成員によって知られている、承認された参与者(ratified participant) と 立ち聞き者(overhearer) に分け、前者をさらに、話し手(speaker)・受け手(addressee)・傍参与者(side-participant) に分けている。

### 隣接対偶

シェグロフとサックスは特徴として(1)二つの発話からなり(2)構成成分として二つの発話は隣接した位置に置かれ(3)各々の発話をそれぞれ別々の話し手が生成する、の3つをあげている。

### 順番取得装置

シェグロフとサックスは、「会話」がキャッチボールないしテニスのラリーのようなものとして行われているという点に注目した。そして、そうだとすれば、そのラリーないしパス回しが円滑に成立するために、そこに何らかの社会的装置が機能しているはずだと考えた。会話の基本的な特徴とは(1) 単一の会話においては、少なくとも一人の、かつ一人の話し手だけ

が一時に話すこと、および(2)話し手の交代が繰り返されることの二つである。会話を交わしている者同士は、会話をしながら話し手の順番を継続的に秩序づける「装置」を用いて、この特徴をそれぞれ、あるいは、むしろ、二つの特徴を同時に確保する。

#### 最終交換

シェグロフとサックスが提案する会話の終結部の構造は、pre-closingとclosingという二つの部分からなる。最終交換とは、pre-closingの声明に同意が得られた場合に生成される、会話を終了させる二つの発話(closing)を指す。(=終了交換)

#### 社会的資源

人々の欲求の対象となり、かつ十分にはないものを指す。大きく分けると経済的資源(金や物)、関係的資源(人脈やコネ)、情動的(文化的)資源(教養や学歴)の3つがあげられる。

#### 移行適切性

次の話し手の選択を組織する一組の手続きと、他方でどのようなきっかけで次の話し手への移行が起きるのが決まるのは、現在行われているそれぞれの発話の内部においてであり、また、このような選択が効果を得て、次の話し手への移行が適切になされるのは、まさに現在行われているそれぞれの発話が完了しそうな、話し手の交替にふさわしい移行適切場所においてであり、これを発話が完了しうる場面での移行適切性という。

### 出典

串田秀也・好井裕明『エスノメソドロギーを学ぶ人のために』世界思想社 2010

前田泰樹・水川喜文・岡田光弘『エスノメソドロギー』新曜社 2007

好井裕明『エスノメソドロギーの現実』世界思想社 1992

山田富秋・水川喜文『入門エスノメソドロギー』せりか書房 1996

アアロン シクレル『社会学の方法と測定』新泉社 1981

好井裕明『批判的エスノメソドロギーの語り』新曜社 1999

見田宗介・栗原彬・田中義久 編『社会学辞典』弘文堂 S63

森岡清美・塩原勉・本間康平 編『新社会学辞典』有斐閣 1993

檉田美雄・寺嶋吉保・広瀬京子・橋本文子・岡田光弘・中村和生・阿部智恵子・安藤太郎・前田泰樹・木野綾子・黒葛原健太郎・桑内敬子・小西友「カウンセリング系電話相談におけるトラブル処理 がん電話相談の準備と連動しての研究(続)」2001

榎本美香・伝康晴「3人会話における参与役割の交替に関わる非言語的行動の分析」2009

都恩珍「重なり後の発話の中断と修復現象の一側面」2009

## レポート

黒住論文「幼児を対象としたスイミングスクールにおける相互行為分析」より

### 場の空気を読むことと社会性の発達の関係について

#### 1. はじめに

「子ども達にとって泳いでいる時間よりも並んで座っている時間の方が圧倒的に長いという事実もある。そのような時間を過ごす中で、順番を守るようになる、話が聞けるようになる等の「社会性」を身につけるようになることも多くあるようにみえた。」と黒住は言う。

「場の空気を読む」ということと「適切に振る舞うこと」は別の問題であり、スイミングスクールのような公的な場所にふさわしい「振る舞い」をするためには「空気が読める」能力だけでなく、規範意識を持ち、自己を制御できることが必要であると考えられる。

そこで、「場の空気を読む」ことの意味、規範意識や自己制御能力が社会性の獲得に与える影響について考えてみたい。

#### 2. 空気を読む子どもたち

「空気を読む」という行為にはどのような意味があるのだろうか。下河辺(2008)は「空気を読む」ことについて、「多数派や力を持つ者が思っていること、やろうとしていることに従えという圧力を含んでいる」と述べている。お笑い芸人が「空気を読み」つつ笑いを提供するように、ポジティブな側面も持っているが、「いつもまわりを気にして空気を窺い、その空気に自分を合わせる。それをしない者、不得意な者に浴びせられる“空気読めよ!”という卑屈な言葉」(下河辺, 2008)というようにネガティブな使われ方をすることが多いようである。

「学校」という場から離れ、「子ども村」という場に集まった子どもたちを対象に行われたインタビューでは、子どもたちが学校と子ども村で違うキャラを演じていることが明らかになった。インタビューに答えた子どもたちは、常に「ハプキ行為」<sup>1</sup>において気を使い続ける必要がある学校と、みんなが比較的和やかに過ごしている子ども村とで場の雰囲気に合わせて、振る舞い方を変えているという。

子ども劇場ではみんなと和やかに話すことができる一方、学校においては「かなり敏感かつ長期にわたり気を使い続けなければならない状態に疲れ果ててしまい、すべてのことにやる気がおきない」状態にあり、「相手の反応を見てさらに自分を変えなければならないことに疲労感を感じている」。(金子, 2009)

また、インタビューを通じて「場の空気を読む」という行為それ自体がなけば日常化し、且つ常識化するなか、これらに疑問を持つことなく・・・」(金子, 2009)と、子どもたちが空気を読むことに疲れつつもそれに慣れてしまっている様子が明らかに

なった。

人の気持ちを読み取ることについて、「察する」という言葉が使われることがある。下河辺(2008)は、「察する」をお互いというヨコ関係または対等な気持ちがあるとき、そこにふさわしい言葉であると言う。仲間に対する感覚は「察する」ではないだろうか。

スイミングスクールの子どもたちは場の空気を読んでどのように振る舞うかを決定し、仲間の気持ちを察しながら人間関係を形成していると考えられる。

### 3. 子どもの規範意識

規範意識とは、「主に善悪の観点から「この場合はこのように行動すべきである」を指し示している。」(新井, 2002)

フロイトは、子どもは同性の親とのエディプスコンプレックスを経験した後、同性の親に対して同一視を行い、親の価値観や行動様式をさかんに取り入れると述べた。また、ピアジェは子どもにとって親が提示する規則や規範は絶対的なもので、それを破るのはもちろん、変更することも許されないと考えるとした。

もちろん、その後の発達の中で社会的な規則や規範は絶対的なものではなく、社会構成員の同意があれば変更可能なものであるという理解へと発展してゆくが、どちらの考え方にも、大人の課す規範を積極的に取り入れ、それに従って自分を律する時期があるとされており、それが幼児期後半から児童期である。この時期に規範のモデルとなる人物と出会うこと、各種メディア・親・教師などから規範メッセージを受け取ることが子どもの規範意識の形成を大きく左右すると言える。

規範意識が芽生えるきっかけについて岩佐(2007)は、親や先生にとるべき行動を状況ごとに教えられたのかもしれないし、何が何でもやらなければならないとたたき込まれたのかもしれないが、その内容が子どもたちの心に定着し、自然な行動として実行に移されるようになるには、そこに関わる人々とのある種の心のつながりが必要であると述べている。

黒住論文で取り上げられている子どもたちは、児童期にあり、スイミングスクールで同じ目標のもと同じ練習メニューをこなしている。そこではみんなが仲間であるとともに、ライバルでもある。したがって、コーチだけでなく仲間とも何らかの心のつながりがあると考えてよいだろう。ゆえに、規範意識の形成はスイミングスクールのような課外活動の場でも可能だと考える。

### 4. 社会性の発達

社会性は「・・・心の理論で、自分の持っているものと、相手の持っているものを共有するというに通じます。これは必ずしも言語的なやりとりではなくてもよくて、表情のやりとりとかジェスチャーでも、お互いが状態を共有できれば社会性を形成できる・・・」(河合, 2010)「家庭、社会、人間関係をうまくやっていく力」(小林, 2010)「社会一般に広く通じる性質」(田中, 2001)のように自分の意識と相手の意識の共有

であると定義されている。

松永(2004)は、社会性を構成する諸特性として場に応じて自己主張したり自己抑制したりできる自己制御能力や、他者の気持ちや意図、欲求や考えなどを推測する他者理解能力、特定の集団内でのルールや社会的規範、行動様式の理解などを挙げている。

ただ、現代社会に生きる子どもたちについては「・・・他人の心を思いやって仲良く生きていきましょうという心のプログラムを使わなくても、生きていける。したがって、その心が弱くなってしまっている」「昔は、兄弟がたくさんいるから、お兄ちゃんにとられるのは仕方ないと弟・妹は我慢をすることがありましたが、そういうことを体験しないから抑えることもできなくなってしまった」という。(小林, 2010)

昔に比べ、現代っ子達は互いを思いやり仲良くやっていく、という考えに乏しいということであるが、スイミングスクールにおいて子どもたちは、幼児G,Hに代表されるようにお互いの考え方の違いを認め、「その場の習慣や特有のルールに適應させた新しい秩序を構築することによって解決させていたのである」。(黒住, 2009)このことは、上記の社会性の定義にもあてはまる。異年齢の子どもたちが集まる場で多くの時間を過ごすという経験を積めば、他人の心に触れる機会が増え自己制御も可能になってくるのではないだろうか。

## 5. まとめ

黒住論文では、スイミングスクールで自分の順番を並んで待っている子どもたちが、長い待ち時間の間に社会性を身につけるといことも多くあるように見えた、ということである。

「空気を読む」にはネガティブな雰囲気が漂うが、現代の子どもたちにとって場の空気を読んで振る舞い方を変える、ということは「なかば日常化し、且つ常識化」(金子, 2009)しているようである。また、人の気持ちを読み取ることについて「察する」という言葉が使われることがある。この言葉はお互いというヨコ関係または対等な気持ちがあるときにふさわしい言葉である。スイミングスクールの子供たちは場の空気を読んでどのように振る舞うかを決定し、仲間の気持ちを察しながら人間関係を形成していると考えられる。

論文中の子どもたちは規範意識が形成される児童期にあり、コーチや仲間たちとの間で共有されるルールであれば明文化されていなくても、自然に取り入れていくと考えられる。ルールを守ることが安全面から重要であるだけでなく、人間関係を良くし、レッスンをスムーズに進めることにもつながるとはっきり意識していなくても、先生が言ったから、友だちが守っているからということが十分理由になるのである。

現代の子どもたちをきょうだいや遊び友達が少ないため社会性に欠け、自己制御もできないと考える向きもあるが、異年齢の子どもたちが多く集まる場に参加することで多少なりとも他人を思いやったり、何かを我慢したり、という経験の不足は補えるだろう。

スイミングスクールのようにたくさんの仲間がいる場所では、場の空気を読み、仲間

の気持ちを察して行動することが自己制御や、ルールに則った行動につながる。そして、そのことが社会性を発達させていくと考えられるのである。

(注)

1 無視、シカト。

## 参考文献

下河辺牧子「空気を読むな」子どもと昔話(34), 47-50, 2008

下河辺牧子「空気を読むな(続)」子どもと昔話(35), 71-74, 2008

金子 満「「場の空気を読む子どもたち」に関する実証研究」鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要 2009.12

新井 邦二郎 「規範意識の成長(児童期)」深谷昌志 編『子どもの規範意識を育てる:子どもの規範感覚の検証と子どもの規範形成の探究』より教育開発研究所 2002.6

岩佐信道 「道德性の発達と規範意識の育成」児童心理 61(16), 38-43, 2007.11

山内光哉 編『発達心理学 上』ナカニシヤ出版 1989

河合優年 小林登 一色伸夫 「第64回シンポジウム 子どもの社会性はどのようにして育つか」 子ども学 (Child studies)(12), 5-28, 2010.03 甲南女子学園

田中久美子 「社会性を育てるマナーの学習」 児童心理 55(13), 59-65, 2001.09